

2026 年度入学生用

兵庫教育大学 教員養成スタンダード ハンドブック

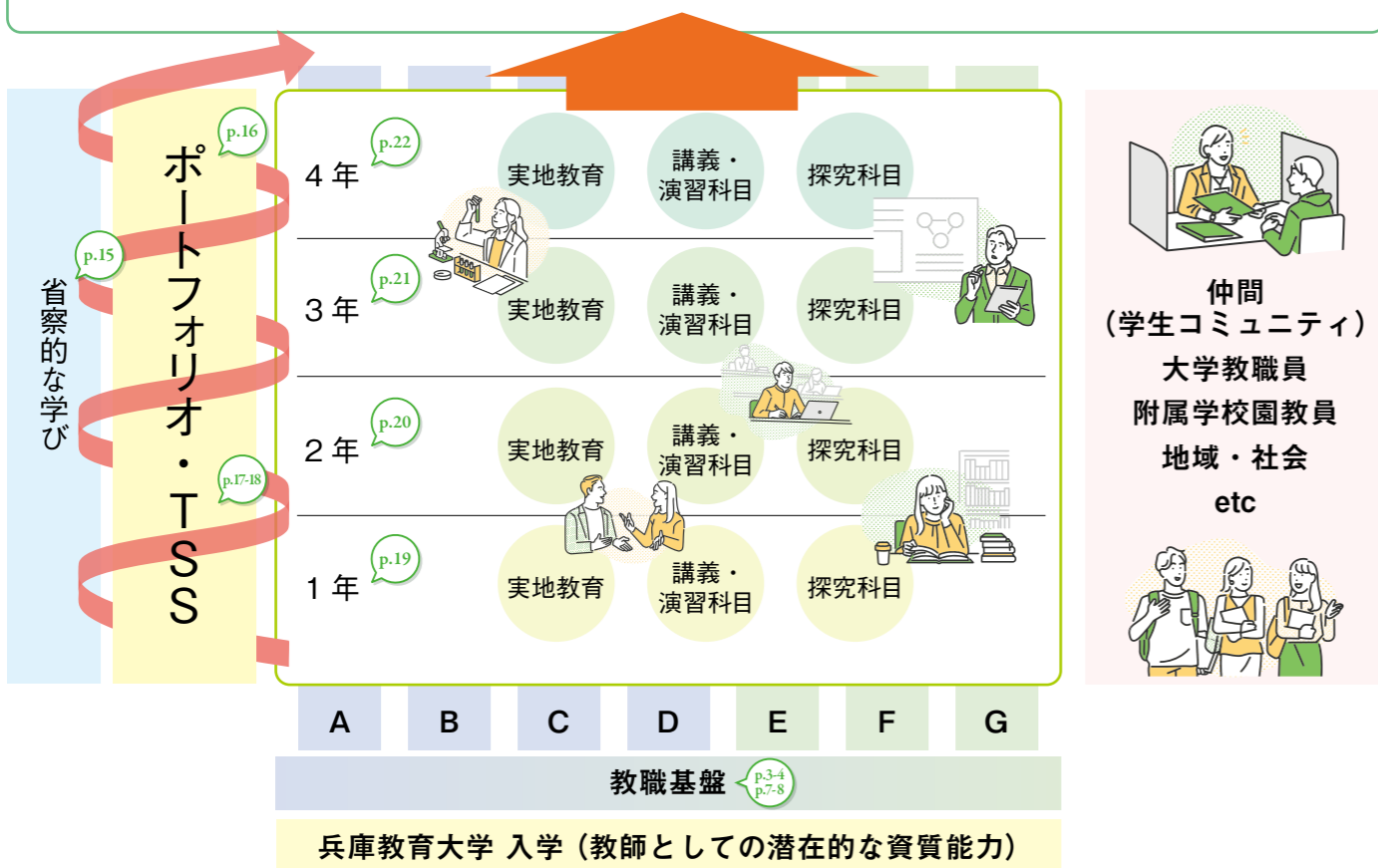
4年間の学修イメージ



教員としてのスタート（教師としての専門性の継続的な向上）

兵庫教育大学 卒業

【問いを持ち課題を設定する力】【探究し実践する力】【省察し改善する力】



HANDBOOK OF HUTE TEACHER EDUCATION STANDARDS
FOR UNDERGRADUATE STUDENTS

兵庫教育大学
Hyogo University of Teacher Education

「学び続ける教師」を目指して

兵庫教育大学が目指す教師像

皆さんは、「世界一、素晴らしい授業」ってどんな授業だと思いますか？あるいは、「10年前の素晴らしい授業」と「10年後の素晴らしい授業」とは果たして同じだと思いますか？

言うまでもなく、唯一無二の「世界一、素晴らしい授業」は存在しません。また、「10年前の素晴らしい授業」は、10年後にも「素晴らしい授業」だと評価されるとは限りません。しかし、「その時のAさんにとっての素晴らしい授業」は確実に存在しています。教育は、一人一人の子供の実態に応じて、その個別具体性に寄り添いながら、ねらいとする資質・能力を育成していくことが求められます。一方で、学習指導要領や幼稚園教育要領は概ね10年に1度、改訂が行われます。これは、社会の変化に対応して、教育の考え方もどんどん進化していくからです。

このように考えると、教師という仕事は、教職に関わるしっかりとした軸を持ちながら、一人一人の子供の個別具体性を学び取るとともに、その子供たちが大人になる10年後、20年後の未来を予見しながら、新しい教育改革の考え方を学び続けていく必要があります。教師の専門性は、「学び続ける」ことこそ存在しているのです。

兵庫教育大学では、このような考え方のもと、「学び続ける教師」の育成を目指しています。本学での学修をスタートラインにして、生涯にわたって継続的に自己の専門性を高め続けていける、そんな力（CPD）を皆さんに獲得して欲しいと願っています。

CPDって？

「Continuing Professional Development」の略で、継続的な専門性の向上という意味

教員養成スタンダードとは

大学での学修をスタートラインにCPDへと続く学びをガイドするために、本学では教員養成スタンダードを策定しています。教員養成スタンダードは、皆さんがこれまでに培ってきた「教師としての潜在能力」をベースに、様々な学びのコミュニティとの関わりの中で、省察的な学びのサイクルを螺旋的に展開していく道筋を示したものです。大学は、カリキュラムにおいてその学修機会（講義・演習科目、探究科目、実地教育）と、学修事項を定めるとともに、省察的な学びのサイクルを支援するためのリフレクションを促進していきます。このような学修経験を通して皆さんは、次の3つの力を身に付けます。



皆さんが教職に就いた後にも、これらの力を発揮し、生涯にわたってCPDを展開することができるようになっていきます。

- ▶教員養成スタンダードの構造図は、小学校・中学校・高等学校版（3～4ページ）、幼稚園版（7～8ページ）を参照
- ▶省察的な学びのサイクルの詳細は、15～16ページを参照

教職の軸となる7領域、19の「教職基盤」

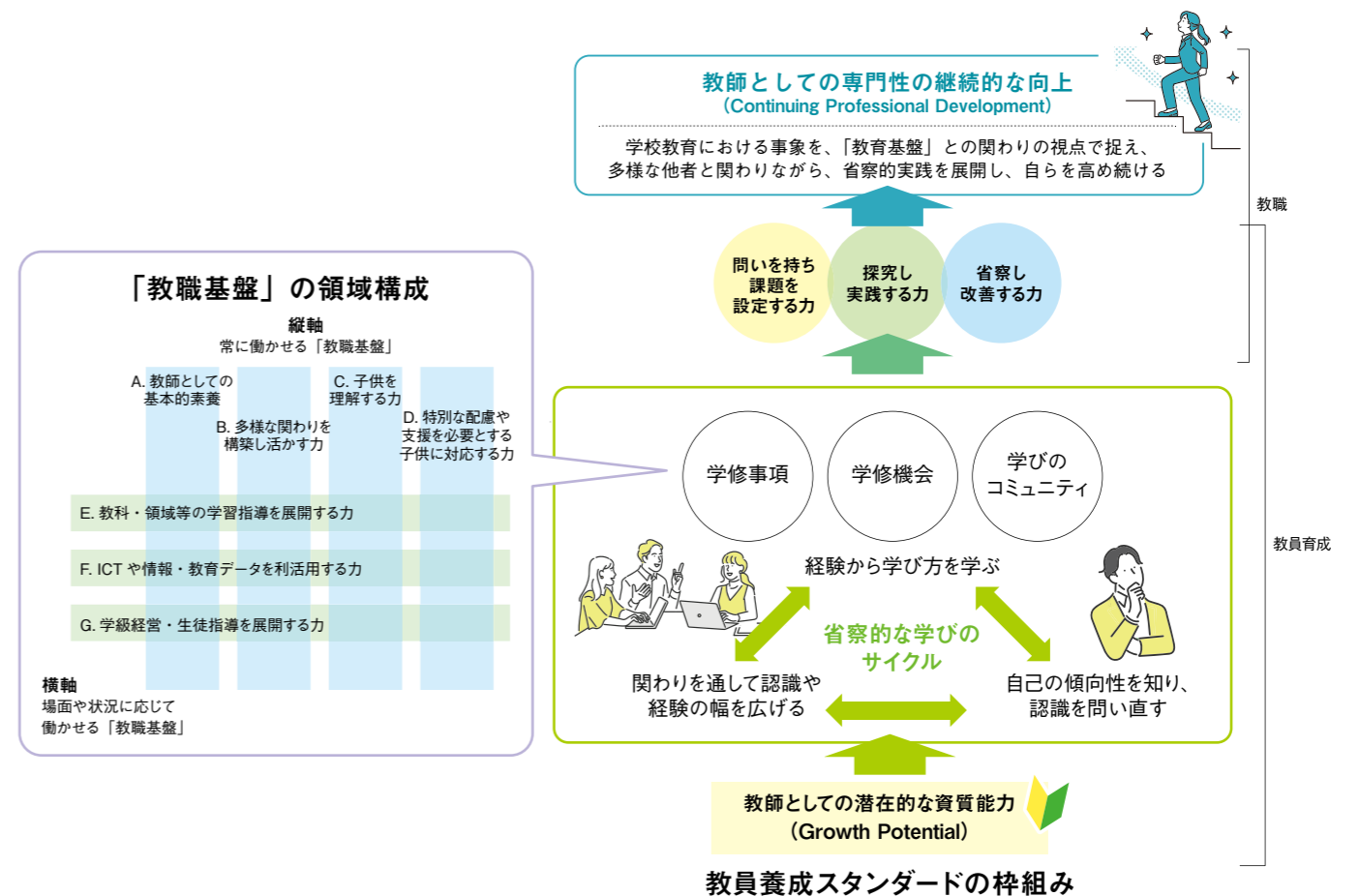
教員養成スタンダードでは、学修事項として7つの領域、19の「教職基盤」を定めています。これは、皆さんの内面に教職に関わる軸を形成するための基盤であり、生涯にわたって学び続けていく際の起点となるものです。「教職基盤」には、学校での教育活動において常に働かせる領域（縦軸）と、場面や状況に応じて働かせる領域（横軸）があります。教員免許の取得に関わる全ての授業科目は、いずれかの「教職基盤」と対応して構成されています。この対応関係をカリキュラムマップと呼びます。

- ▶「教職基盤」の詳細とカリキュラムマップは、小学校・中学校・高等学校版（5～6ページ、別表11～14ページ）、幼稚園版（9～10ページ、別表11～14ページ）を参照

学びの可視化とリフレクション

各授業科目での学びの成果は、学修支援システム上のポートフォリオに蓄積していきます。また、皆さんがどのように学修を積み上げてきたかをTSS（Teachers' Standard-based Score）という指標で可視化します。ポートフォリオやTSS、実地教育や教職実践演習などでの振り返り等の資料を用い、各学年において自己の学びを省察し方向づけるリフレクションを行っていきます。

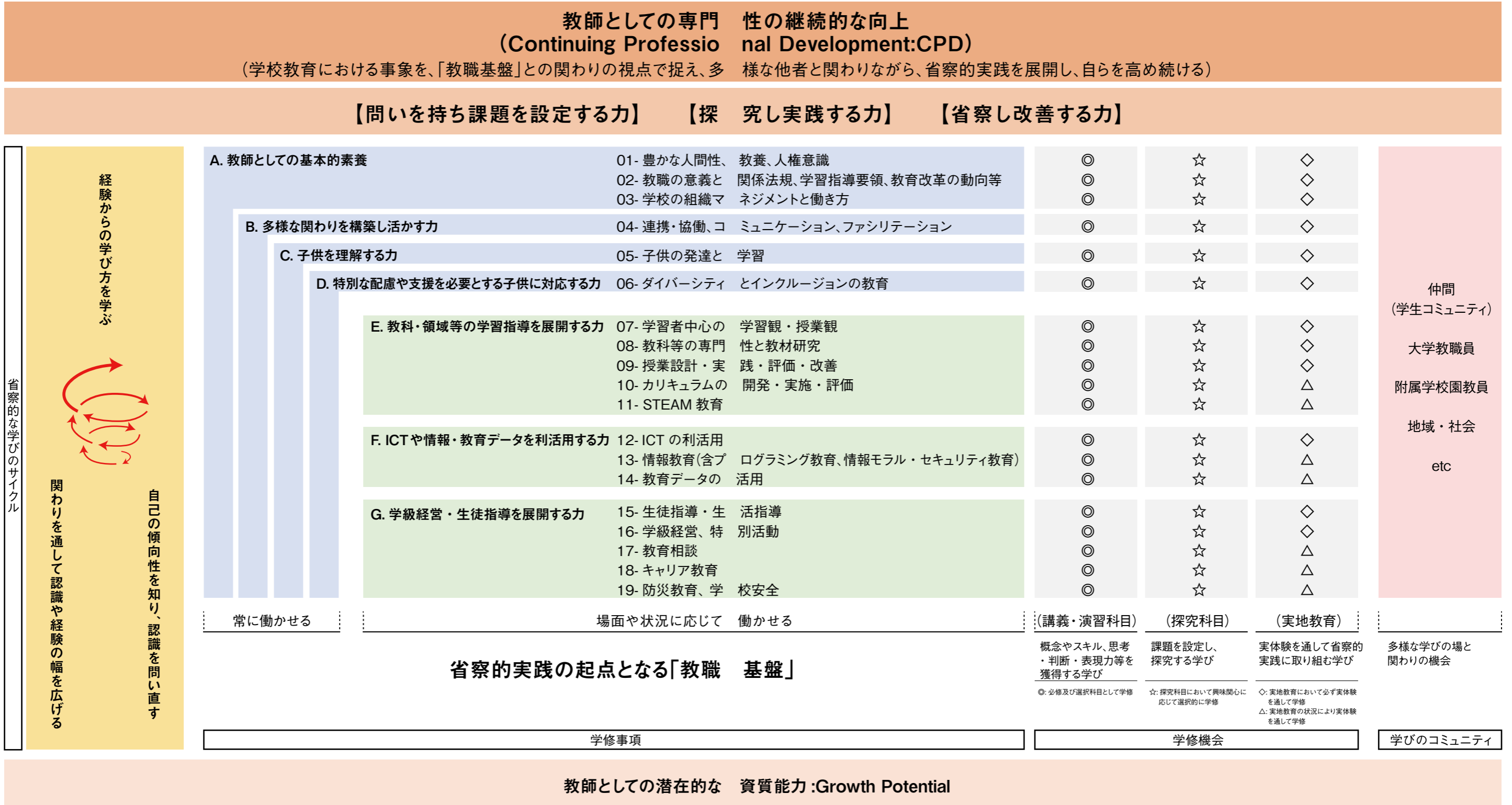
- ▶TSSの詳細は、17～18ページを参照
- ▶リフレクションの詳細は、19～22ページを参照



兵庫教育大学 教員養成スタンダード構造図
(小学校・中学校・高等学校版)

教職

教員養成



経験からの学び方を学ぶ



省察的な学びのサイクル

関わりを通して認識や経験の幅を広げる

自己の傾向性を知り、認識を問い直す

仲間 (学生コミュニティ)
 大学教職員
 附属学校園教員
 地域・社会
 etc

多様な学びの場と関わり機会

■カリキュラムマップ（小学校・中学校・高等学校版）

カリキュラムマップは、「教職基盤」と授業科目との対応関係を表しています。授業科目の中には、一つの科目の中に複数のねらいが含まれている場合がありますが、その主たるねらいに基づいて原則として一つの「教職基盤」に割り当てられています。

縦軸となる「教職基盤」

「教職基盤」の領域	「教職基盤」の名称	「教職基盤」の概念	キーワード	対応する授業科目	
A. 教師としての基本的素養	01- 豊かな人間性、教養、人権意識	豊かな人間性や社会性、広く豊かな教養、子供に対する人権の尊重をもって子供に教育したり、かわつたりする力	豊かな人間性や社会性 / 豊かな教養 / 人権の尊重	教養科目群 (別表1) 教育基礎論I 教育史I 教育社会学I 教育社会学II 教育制度論I 教職原論I 教育方法論I	
	B. 多様な関わりを構築し活かす力	02- 教師の歴史と思想、教職の意義及び教育の歴史と思想、制度的・経営的事項、教育方法・内容、学習指導要領、教育改革の動向等に対応する力	教育者としての使命感、子供に対する教育的愛情や責任感、教職の歴史と思想、教職の意義及び教育の歴史と思想、制度的・経営的事項、教育方法・内容、学習指導要領	教育基礎論II 教育史II 教育社会学II 教育制度論II 教職原論II 教育方法論II	
		03- 学校の組織マネジメントと働き方	学校の組織的な教育活動について理解し、学校組織における自己の役割を分析・理解し、主体的・積極的に諸活動に参画する力、及び学校内外の各種資源について理解し、その効果的な活用を通して学校園教育活動の持続的な改善を行う力	学校園組織に関する理解 / 教員の仕事に関する理解 学校園内外での協働的な問題解決	子どもの安全と学校組織 教師の連携・協働と学校経営
	C. 子供を理解する力	04- 連携・協働、コミュニケーション、ファシリテーション	子供との対話、教員間および関係者との協働を促進するコミュニケーション力	連携・協働 / ファシリテーション コンサルテーション / プレゼンテーション	教師の連携・協働と学校経営 (再掲) 多機関連携と学校防災 校種間連携教育論 社会的養護 部活動の指導と運営
		05- 子供を発達と学習	発達段階における心身の発達の過程ならびにその特徴を理解し、子供の学習を支える教育活動を発達をふまえて展開していくのに必要な力	幼児期から青年期までの心理と発達の特徴 発達障害	発達心理学I 教育心理学I 教育心理学II
	D. 特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力	06- ダイバーシティとインクルージョンの教育	子供の多様性を認める素養をもとにした、インクルージブ教育を展開する力	ダイバーシティ / ソーシャル・インクルージョン インクルージブ教育 / アンコンジャス・バイアス 合理的配慮 / QOLの向上	インクルージブ教育基礎論 インクルージブ教育実践論 特別支援教育概説 外国人児童生徒のための日本語教育 外国人児童生徒のための日本語教育 (演習)

横軸となる「教職基盤」

「教職基盤」の領域	「教職基盤」の名称	「教職基盤」の概念	キーワード	対応する授業科目
E. 教科・領域等の学習指導を展開する力	07- 学習者中心の学習観・授業観	学習観・授業観の転換とその核心としての学習者観の転換にかかわる考え方を理解し、すべての児童生徒の可能性を引き出す、新しい学習観・学習者観に基づく学習環境をデザインする力	アクティビティ・ラーニング ファシリテーターとして果たすべき教師の役割 転換された学習・学習者観に依拠した新しい評価のカタチ	学習科学と授業のリデザイン ラーニング・ファシリテーションの理論と実践 幼児理解論
	08- 教科等の専門性と教材研究	各教科等についての専門的な知識や技能を身につけ、各教科等に応じた見方・考え方を踏まえて、教材を研究・解釈、開発することを通じて、授業を具体的に構想する力	教科の見方・考え方 教材研究 / 教材開発 / 授業の構想力	初等教科内容科目 (別表2) 中等各教科教育 / 内容科目 (別表4) 幼児教育 / 領域及び保育内容の指導法に関する科目(別表3) 初級ピアノ / 実技
	09- 授業設計・実践・評価・改善	学習者中心の授業実践を行うための具体的な手立てについて理解したうえで、それを用いて授業を設計・実施する力。また実施された授業実践を学習者中心という観点から分析・評価し、改善する力	授業づくり / 学習評価 授業研究 / 主体的・対話的で深い学び 個別最適な学び、協働的な学び	初等教科指導法科目 (別表2) 中等各教科教育 / 指導法科目 (別表4) 連徳教育論 / 総合的な学習の時間の理論と実践 幼児教育 / 領域及び保育内容の指導法に関する科目(別表3) 初等教科授業デザイン科目 (別表2)
	10- カリキュラムの開発・実施・評価	教育課程編成の基本原理、学校や児童生徒の現状、学習指導要領などを踏まえて、適切な教育課程を開発し、実施する力、児童生徒の学習経験としてのカリキュラムを分析する力、カリキュラム・マネジメントを視点としながら教育課程を評価し、改善する力	学習指導要領 社会に開かれた教育課程 カリキュラム・マネジメント	教育課程論
	11- STEAM 教育	各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断・文理融合的なプロジェクト型の学習を展開する力	教科横断・文理融合 / PIBL / デザイン思考 ファシリテーション / 地域や企業との協力・協働	STEAM 教育概論 STEAM 教育演習

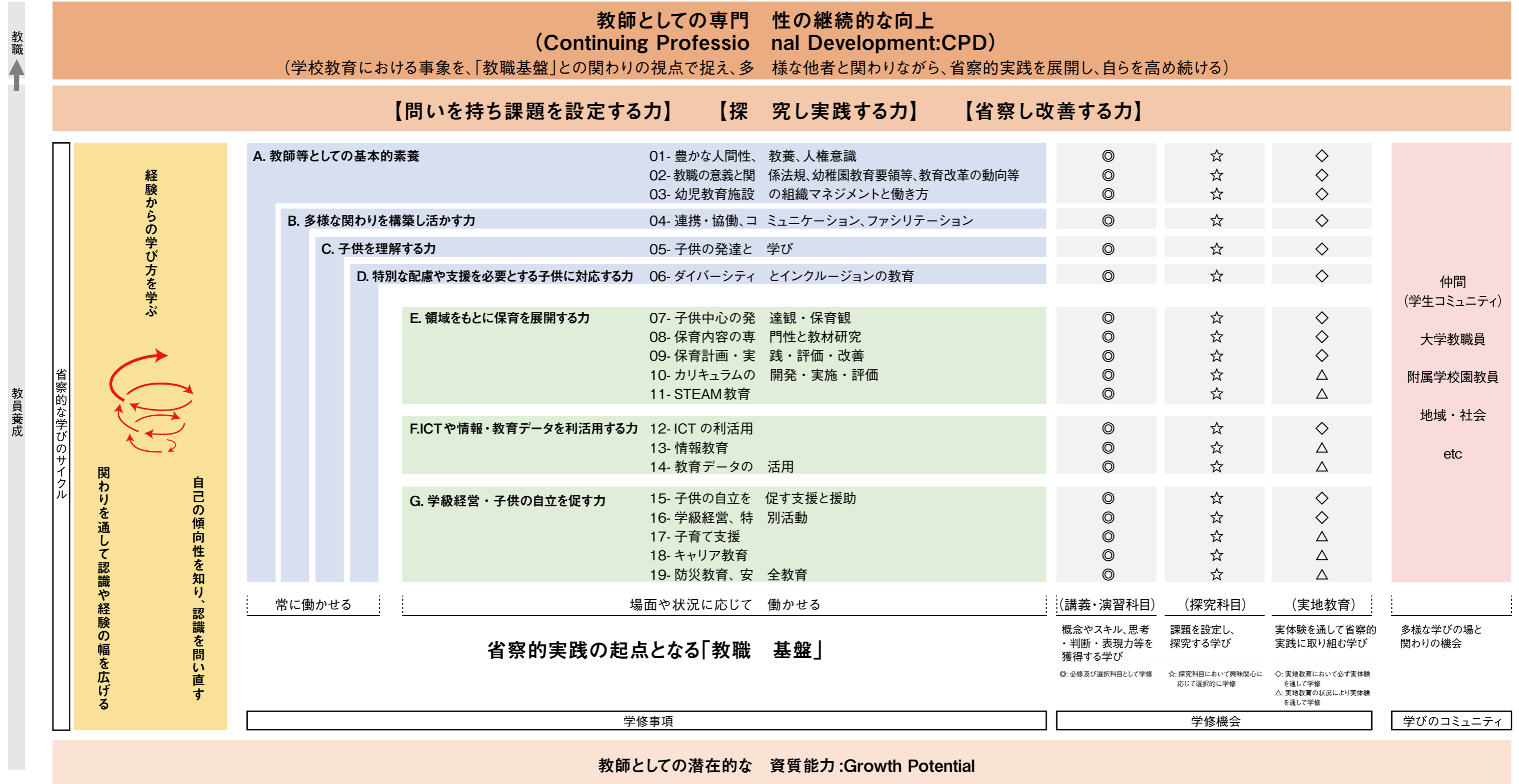
「教職基盤」の領域	「教職基盤」の名称	「教職基盤」の概念	キーワード	対応する授業科目
F. ICT や情報・教育データを利活用する力	12- ICT の利活用	ICT 機器や EdTech、クラウド型授業支援システムなどのデジタル学習環境を活用した情報活用型の授業を展開する力	学習基盤としての情報活用能力 教科指導における ICT 活用	教育情報化概論 デジタル学習環境と情報活用
	13- 情報教育 (含プログラミング教育、情報モラル・セキュリティ教育)	情報活用能力の育成に向け、探究・問題解決における情報活用、プログラミング教育、情報モラル・セキュリティ教育などの実践を展開する力	ICT 基本操作 / 探究・問題解決における情報活用 プログラミング教育 / 情報モラル・セキュリティ教育	教育情報化概論 (再掲) 小学校プログラミング教育教材論 情報モラル・セキュリティ教育論
G. 学級経営・生徒指導を展開する力	14- 教育データの活用	Eビデンスに基づき教育を改善するために、教育データを適正に活用する力	教育データの収集 / 教育データの可視化 教育データの統計的な分析	教育データサイエンス 教育・心理研究法
	15- 生徒指導・生活指導	児童生徒一人一人が主体的に自己実現していく過程を支援するとともに、集団や社会の中でその一員としての自己を成長させていくための教育活動を展開する力	児童生徒理解 / 自己指導能力 問題対応型生徒指導から開発的・予防的生徒指導へ 学習指導と生徒指導の一体化 学校組織における協働的生徒指導体制 学校と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導論
16- 学級経営・特別活動	16- 学級経営・特別活動	児童生徒理解のもと、児童・生徒との信頼関係を構築すると共に、一人一人が安心でき、自己存在感や充実感を感じられる場所に主体的に取り組む共同的な活動を設定・実践する力	学級内の人間関係と集団づくり 特別活動の意義、目標及び内容	特別活動論I 特別活動論II
	17- 教育相談	児童生徒を取り巻く様々な問題に対して、個々の立場に寄り添い支援・解決できることに加え、一人一人にきめ細かい対応をするための校内相談体制の構築や専門家を含めた関係機関と連携する力	スクールカウンセリングと心理療法 教育相談の基礎と個別支援の方法 学校カウンセリングの基礎知識	教育相談論I 教育相談論II 学校精神保健学 学校・臨床心理学
	18- キャリア教育	児童生徒が社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を表現していくために必要な能力や態度を育成する力	自らの生き方と自己実現	キャリア教育論
	19- 防災教育、学校安全	安全・安心な教育環境に関する幅広い理解、学校内外での連携関係を活用した組織的な危機管理についての理解に基づき、それを実践する力。	安全・安心な教育環境 地域連携・多機関連携による学校防災	子どもの安全と学校組織 (再掲) 多機関連携と学校防災 (再掲)

学び続ける教師の力の育成に関わる科目 (全ての「教職基盤」に関わる)

学び続ける教師の力の育成に関わる科目 (全ての「教職基盤」に関わる)	上記全科目に加え下記科目で「教職基盤」を働かせ、省察し改善する力、探究し実践する力、問いを持ち課題を設定する力を育て
「自己の傾向性を知り、認識を問い直す」学び	教職実践演習 教師力養成特別演習 小学校授業づくり入門 教職基礎探究
「関わりを通して認識や経験の幅を広げる」学び	学校観察実習 (実地教育I) フレンドシップ実習 (実地教育II) 初等基礎実習 (実地教育III) 中等基礎実習 (実地教育IV) 初等実習II / フレクション (実地教育V) 中等実習II / フレクション (実地教育VI) 学校教育応用実習 (実地教育VII)
「経験からの学び方を学ぶ」学び	学校インターンシップ実習

「教職基盤」には位置づけられない科目	学校経営と学校図書館 学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 学校図書館学I 学校図書館学II
「教職基盤」には位置づけられない科目	学校図書館司書教諭資格取得に係る科目

赤字:必修科目、選択必修科目
青字:選択科目



別表1 教養科目群

アカデミックスキル科目
クラスセミナーI
クラスセミナーII
情報処理基礎演習
AI・データサイエンス基礎

社会課題探究科目
暮らしのなかの憲法
同和教育と人権教育
社会の中の言語文化
芸術と人間
環境問題と健康
文学と読解
現代を生き抜くための社会科
生涯学習と人間形成
人間関係とカウンセリング
地域と教育(兵庫の教育の特色と課題)
社会ボランティア体験学習I
社会ボランティア体験学習II
障害者理解と支援(入門)
へき地・小規模学校の実際

理数系基礎科目
数学基礎
自然科学入門
わくわくサイエンス実験
基礎理科実験

グローバルスタディーズ科目
グローバルスタディーズI
グローバルスタディーズII
海外教育体験実習

表現コミュニケーション科目
英語コミュニケーションI
英語コミュニケーションII
英語コミュニケーションIII
英語コミュニケーションIV
英語コミュニケーションV
英語コミュニケーションVI
英語コミュニケーションVII
アカデミック英語I
アカデミック英語II
アカデミック英語III
アカデミック英語IV
アカデミック英語V
ドイツ語コミュニケーションI
ドイツ語コミュニケーションII
フランス語コミュニケーションI
フランス語コミュニケーションII
中国語コミュニケーションI
中国語コミュニケーションII
韓国語コミュニケーションI
韓国語コミュニケーションII
体育I
体育II

別表2 初等教科内容科目／初等教科・領域教育法科目

初等教科内容科目
初等国語
初等社会
初等算数
初等理科
初等生活
初等音楽
初等図画工作
初等体育
初等家庭
初等英語

初等教科指導法科目
初等国語科教育法
初等社会科教育法
初等算数科教育法
初等理科教育法
初等生活科教育法
初等音楽科教育法
初等図画工作科教育法
初等体育科教育法
初等家庭科教育法
初等英語科教育法

初等教科授業デザイン科目
初等国語科授業デザイン
初等社会科授業デザイン
初等算数科授業デザイン
初等理科授業デザイン
初等生活科授業デザイン
初等音楽科授業デザイン
初等図画工作科授業デザイン
初等体育科授業デザイン
初等家庭科授業デザイン
初等英語科授業デザイン

別表3 幼児教育／領域及び保育内容の指導法に関する科目

領域及び保育内容の指導法に関する科目
幼児と健康
幼児と人間関係
幼児と環境
幼児と言葉
幼児と表現
幼児教育指導総論
保育内容健康論
保育内容人間関係論
保育内容環境論
保育内容言葉論
保育内容表現論

別表4 中等各教科教育 / 内容科目 / 指導法科目
(教科教育系グループ科目(中学校、高等学校))

国語グループ科目	
教科内容科目	日本語学I
	日本語学II(音声言語及び文章表現を含む。)
	日本語学演習I
	日本語学演習II
	日本文学I
	日本文学II(日本文学史を含む。)
	古典文学演習
	近代文学演習
	児童文学論
	児童文学演習
教科指導法科目	国語科教育法I
	国語科教育法II
	国語科教育法III
	国語科教育法IV
	国語科授業研究

英語グループ科目	
教科内容科目	英語学概論
	英語学基礎論
	英語学特論
	英語文学概論
	英語文学特論
	英語文学研究
	オーラルコミュニケーションI
	オーラルコミュニケーションII
	ライティング
	異文化理解I
教科指導法科目	英語科教育法I
	英語科教育法II
	英語科教育法III
	英語科教育法IV
	英語科授業研究

社会グループ科目	
教科内容科目	日本史概説
	日本史特講
	日本史演習I
	日本史演習II
	外国史概説
	外国史特講
	外国史演習I
	外国史演習II
	人文地理学概説
	地理学特論演習I
教科指導法科目	法律学概説(国際法を含む。)
	政治学概説(国際政治を含む。)
	法律学演習
	政治学演習
	経済学概説(国際経済を含む。)
	社会学概説
	社会学演習
	倫理学概説・演習
	哲学概説
	哲学演習
教科指導法科目	社会科教育法I
	社会科教育法II
	社会科教育法III
	社会科教育法IV
	地理歴史科教育法I
	地理歴史科教育法II
	公民科教育法I
	公民科教育法II
	社会科授業研究

数学グループ科目	
教科内容科目	代数学I
	代数学II
	代数学III
	幾何学I
	幾何学II
	幾何学II演習
	解析学I
	解析学I演習
	解析学II
	確率・統計
教科指導法科目	コンピュータ数学概論
	数学科教育法
	数学科教育法演習
	数学科教育法特別演習I
	数学科教育法特別演習II
	数学科授業研究
数学特別演習	

理科グループ科目	
教科内容科目	物理学I
	物理学II
	物理学実験
	化学I
	化学II
	化学実験
	生物学I
	生物学II
	生物学実験
	地学I
教科指導法科目	地学II
	地学実験
	理科教育法I
	理科教育法II
	理科教育法III
	理科教育法IV
	理科授業研究
	地質学野外研究

音楽グループ科目	
教科内容科目	ソルフェージュ
	声楽演習I
	声楽演習II
	合唱演習
	ピアノ演習I(伴奏を含む。)
	ピアノ演習II
	器楽演習I
	器楽演習II
	合奏演習
	指揮法演習
教科指導法科目	音楽理論と音楽史の基礎(作曲法を含む。)
	作曲演習
	音楽科教育法I
	音楽科教育法II
	音楽科教育法III
	音楽科教育法IV
音楽科授業研究	

美術グループ科目	
教科内容科目	絵画教育論
	絵画演習
	絵画実技
	版画
	彫刻教育論
	彫刻演習
	彫刻実技
	構成教育論
	デザイン実技
	工芸教育論
教科指導法科目	工芸実技
	美術史学
	美術史学演習
	芸術学
	美術科教育法I
	美術科教育法II
美術科教育法III	
美術科教育法IV	
美術科授業研究	

保健体育グループ科目	
教科内容科目	基礎体育実技I(陸上競技、体操・器械運動)
	基礎体育実技II(水泳、ダンス)
	基礎体育実技III(球技①)
	基礎体育実技IV(武道)
	基礎体育実技V(野外活動)
	応用体育実技I(陸上競技、体操・器械運動)
	応用体育実技II(水泳、ダンス)
	応用体育実技III(球技②)
	体育・スポーツ文化論I
	体育・スポーツ文化論II
教科指導法科目	体育心理学
	体育経営・管理
	バイオメカニクス
	生理学・運動生理学
	衛生学・公衆衛生学
	学校保健I
	学校保健II
	学校保健III(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)
	保健体育科教育法I
	保健体育科教育法II
保健体育科教育法III	
保健体育科教育法IV	
保健体育科授業研究	

技術・情報グループ科目	
教科教育専門科目	材料加工I(実習を含む。)
	材料加工II(実習を含む。)
	機械工学(実習を含む。)
	電気工学(実習を含む。)
	電子工学(実習を含む。)
	生物育成
	情報通信ネットワーク
	プログラミング
	情報科学
	計測・制御システム
	情報社会(職業に関する内容を含む。) 情報倫理
	AI・データサイエンス応用
	データの分析と可視化
	データベースシステム
ネットワークプログラミング	
マルチメディア表現・技術	

技術・情報グループ科目	
教科指導法科目	技術科教育法I
	技術科教育法II
	技術科教育法III
	技術科教育法IV
	技術科授業研究
	情報科教育法I
情報科教育法II	
情報科授業研究	

家庭グループ科目	
教科内容科目	生活経営学・福祉(家庭経済学を含む。)
	家族関係学
	社会福祉学演習
	被服学I
	被服学II
	被服構成学実習
	食物学I(食品学及び栄養学を含む。)
	食物学II
	調理学実習
	住居学
教科指導法科目	保育学
	家庭科教育法I
	家庭科教育法II
	家庭科教育法III
	家庭科教育法IV
	家庭科授業研究

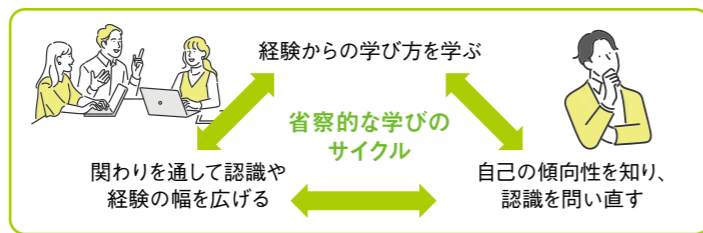
省察的な学びのサイクル

「省察的な学び」とは

小学校、中学校、高等学校には、学ぶべき内容が計画的に配置されたカリキュラムがあり、多くの授業科目で教科書が用意されています。高等学校までの学びは、いわば「ガイドされた学び」でした。職業に就いてからも学び続ける必要がありますが、教師をはじめほとんどの職業には、それまでのような学びのガイドがありません。カリキュラムも教科書もないのです。それならば、仕事をしながらどのようにして学ばよのでしょうか。結論的にいうと、日々の経験から学んでいるのです。そして、そこでは「省察」という思考過程が大きな役割を果たしています。「省察」とは、経験した出来事（事例）の意味等について、自分なりに考えたり、論理的に多面的に柔軟に思考したりすることです。大学の4年間は、「ガイドされた学び」から「経験からの学び」への移行期間といえるでしょう。

「省察的な学びのサイクル」とは

経験から学ぶためには、次の①～③の3つのフェーズを繰り返す必要があります。そして、それらのフェーズを繰り返すことを「省察的な学びのサイクル」と呼びます。「省察的な学びのサイクル」を継続していくことが、CPDに繋がるのです。



① 経験からの学び方を学ぶ

「省察的な学びのサイクル」の中心に位置するフェーズです。授業や実習はもちろんのこと、大学生活の様々な経験について、それを言葉等で表現し、省察します。そして省察したことを、次の経験や今後の取り組みに活かしていきます。

② 関わりを通して認識や経験の幅を広げる

多様な他者や対象との関わりを通して、「省察的な学びのサイクル」の土台となる自らの認識や経験の幅を広げていきます。

③ 自己の傾向性を知り、認識を問い直す

自分の強みや弱み、特性等を知ることも重要です。また、自分の中で当たり前になっているがゆえに自覚しづらい、ものの見方や認識、信念、価値観等を問い直していきます。

皆さんの「省察的な学びのサイクル」を支援するため、リフレクションの機会を設定します。

学修支援システム manaba について



学修支援システムとしてのmanaba

manaba は、各授業のおしらせ、講義資料の配布、小テスト、レポート提出、など皆さんの学修を支援するシステムです。



ポートフォリオとしてのmanaba

manaba にはポートフォリオ機能があります。提出されたレポートなどは自動的にポートフォリオに蓄積され、一覧表示することができます。



manaba に蓄積したポートフォリオは、「省察的な学びのサイクル」を生み出すためのリフレクションに活用します。

TSS (Teachers' Standard-based Score)

TSS とは

TSS とは、スタンダードに基づいて、自らの学びをどのように積み上げたかを可視化したものです。主として2年次末、4年次末に参照し、今後の学びに役立ちます。

成績評価 S (4点)、A (3点)、B (2点)、C (1点) に、単位数を乗じたもの (例えば、2 単位科目で A ならば 6 点) を、TSS 科目群 (18 ページ参照) ごとに累積して、得点を算出します。

棒グラフとデータバーでの表示

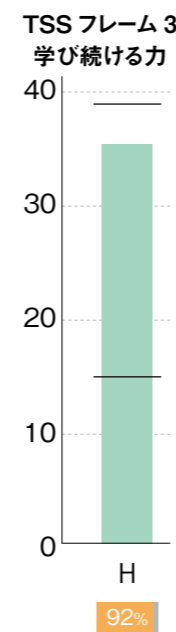
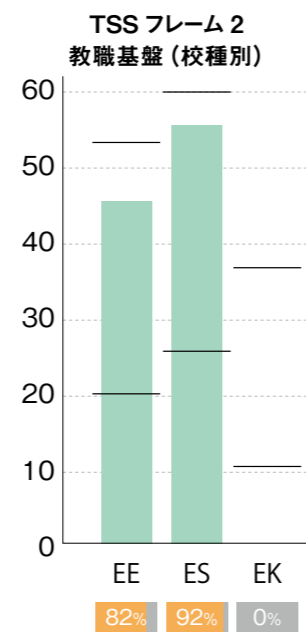
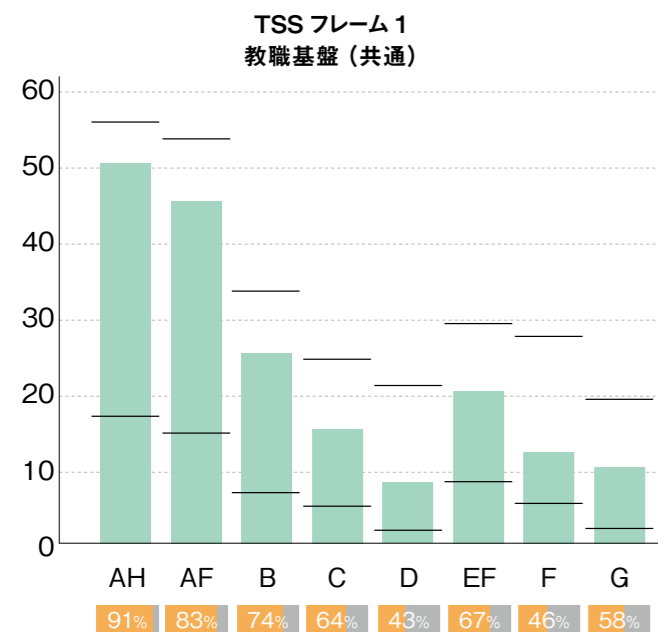
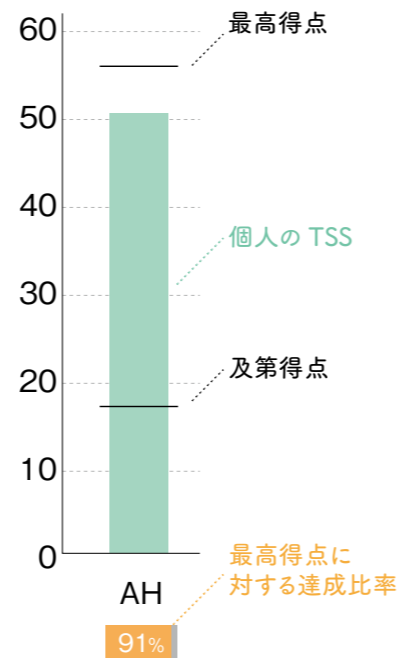
棒グラフは、個人の TSS を示しています。参考として、及第得点 (科目群でオール C だった場合の得点) と最高得点 (科目群でオール S だった場合の得点) が示されます。

データバーは、最高得点を 100 とした場合の個人の TSS の達成比率を示しています。

リフレクションにおける TSS の活用

2 年次は、TSS 科目群間で比較し、自分の得意・不得意を把握し、3 年次以降の履修計画等の参考にしましょう。

4 年次は、TSS 科目群間で比較するだけでなく、2 年次と比べての伸びも確認し、自分の得意や CPD の課題を考えましょう。



TSS 科目群

TSS 科目群	対応する「教職基盤」
AH. 教師(等)としての基本的素養 教養科目群 (別表1)	01- 豊かな人間性、教養、人権意識
AF. 教師(等)としての基本的素養 教育基礎論I・II、教育史I・II、教育社会学I・II 教育制度論I・II、教職原論I・II、教育方法論I・II 子どもの安全と学校組織※、教師の連携・協働と学校経営※ 子どもと保育、保育者論	02- 教職の意義と関係法規、学習指導要領 / 幼稚園教育要領等、 教育改革の動向等 03- 学校 / 幼児教育施設の組織マネジメントと働き方
B. 多様な関わりを構築し活かす力 教師の連携・協働と学校経営※、多機関連携と学校防災※ 校種間連携教育論、社会的養護、部活動の指導と運営	04- 連携・協働、コミュニケーション、ファシリテーション
C. 子供を理解する力 発達心理学I・II、教育心理学I・II 保育の心理学	05- 子供の発達と学習 / 子供の発達と学び
D. 特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力 インクルーシブ教育基礎論、インクルーシブ教育実践論 特別支援教育概説 外国人児童生徒のための日本語教育 外国人児童生徒のための日本語教育 (演習) 障害児保育論、子ども家庭福祉	06- ダイバーシティとインクルージョンの教育
EF. 教科・領域等の学習指導を展開する力 / 領域をもとに保育を展開する力 (全校種共通) 学習科学と授業のリデザイン ラーニング・ファシリテーションの理論と実践 道徳教育論、総合的な学習の時間の理論と実践 教育課程論、STEAM 教育概論、STEAM 教育演習 初級ピアノ実技	07- 学習者中心の学習観・授業観 / 子供中心の発達・保育観 08- 教科等の専門性と教材研究 / 保育内容の専門性と教材研究 09- 授業設計・実践・評価 / 改善 / 保育計画・実践・評価・改善 10- カリキュラムの開発・実施・評価 11- STEAM 教育
EE. 教科・領域等の学習指導を展開する力 (初等教育) 初等教科内容科目 (別表2) 初等教科指導法科目 (別表2) 初等教科授業デザイン科目 (別表2)	
ES. 教科・領域等の学習指導を展開する力 (中等教育) 中等各教科教育 / 内容科目 (別表4) 中等各教科教育 / 指導法科目 (別表4)	
EK. 領域をもとに保育を展開する力 (幼年教育科目) 幼児教育 / 領域及び保育内容の指導法に関する科目 (別表3) 幼児理解論、保育内容開発論、幼児教育課程・保育計画論	
F. ICT や情報・教育データを利活用する力 教育情報化概論、デジタル学習環境と情報活用 小学校プログラミング教育教材論 情報モラル・セキュリティ教育論 教育データサイエンス、教育・心理研究法	12- ICT の利活用 13- 情報教育 (含プログラミング教育、情報モラル・セキュリティ教育) 14- 教育データの活用
G. 学級経営・生徒指導を展開する力 / 学校経営・子供の自立を促す力 生徒指導論、キャリア教育論 特別活動論I・II、教育相談論I・II 学校精神保健学、学校・臨床心理学 子どもの安全と学校組織※、多機関連携と学校防災※ 子どもの保健、乳児保育、乳児保育演習、子どもの食と栄養 子ども家庭支援の心理学、子育て支援、子どもの健康と安全	15- 生徒指導・生活指導 / 子供の自立を促す支援と援助 16- 学級経営、特別活動 17- 教育相談 / 子育て支援 18- キャリア教育 19- 防災教育、学校安全 / 安全教育
H. 学び続ける力 学校観察実習、フレンドシップ実習、 小学校授業づくり入門、初等基礎実習、中等基礎実習 初等実習リフレクション、中等実習リフレクション 学校教育応用実習、学校インターンシップ実習 教職基盤探究、教職実践演習、教師力養成特別演習 施設実習、保育所実習、保育実習、保育実習指導 卒業研究	

※2単位科目であるが、2つの科目群にまたがるため TSS 算出時にはそれぞれ1単位分として計算する科目

1年次における省察的な学び

1年次における省察的な学びでは、主に振り返りの仕方を学びます。そのために、「クラスセミナーI」（前期）、「デジタル学習環境と情報活用」（後期）、「クラスセミナーII」（後期）の中で、次のような取り組みを行います。

■「クラスセミナーI」（前期）

下記のアクティビティ①に取り組んだ後、経験学習シート（前期用）を用いて省察します。

■「デジタル学習環境と情報活用」（後期）

下記のアクティビティ②に取り組めます。



■「クラスセミナーII」（後期）

下記のアクティビティ①とアクティビティ②に取り組んだ後、経験学習シート（後期用）を用いて省察します。

○アクティビティ①

大学での学びや日々の暮らしの中で、印象に残った出来事や場面等を（可能な範囲で）写真に撮ったりスケッチしたりして、自分なりの方法で記録に残していきます。

毎月、その記録の中から1つ以上を選んで、画像ファイルやPDF形式でmanabaの「クラスセミナー」に投稿します。その際、ファイルには、なぜそれを記録したのか、説明を書き加えるようにしてください。なお、ファイルは学生同士で閲覧できるように設定されます。

○アクティビティ②

ロイロノートという授業支援クラウドに作られた共有ノートにアクティビティ①の画像ファイルをアップロードします。そして、各自がアップロードした画像ファイルについて、「教職基盤」のどれに相当するのか等に関する意見交換をします。これによって、「教職基盤」への理解を深めていきます。

○経験学習シートを用いた省察

(1) 経験した出来事（事例）の具体的内容、(2) 出来事の意味について、自分なりに考えたこと（前期）、教職基盤との関わりで考えたこと（後期）、(3) 出来事を経験したことやその意味を考えたことによる、自らの「省察的な学びのサイクル」の変化、(4) 今後活かしていきたいこと、今後取り組んでいきたいこと、について、経験学習シートというワークシートに書き込みます。

2年次における省察的な学び

2年次における省察的な学びは、「教職基盤」に基づいて、2年間の学びを振り返ると共に、3年次以降自分の得意分野を伸ばすことについて考えます。そのために、2年次最後と3年次最初「グループミーティング」の中で、次のような取り組みを行います。

■2年次「グループミーティング」（1月中旬～下旬）

「2年間の振り返るシート」を用いて、学びを通して得た知識や身に付けた力について、省察します。



■3年次「グループミーティング」（4月）

「2年間の振り返るシート」を用いて話し合いを行い、3年次において力を入れて学びたい内容を考え、具体的な履修計画を立てます。

○2年次におけるアクティビティ

1年次に実施していたアクティビティ①は、2年次でも同様に行います。

1年次でのアクティビティ①はクラス単位で実施してきましたが、2年次からはグループが主な学びの場となりますので、個人で行います。例えば、画像ファイルを、ワードやエクセルで作成したノートに貼り付け、「教職基盤」との関係を書き込むなど、自分なりに工夫してみましょう。これを自主的に継続できる力を身に付けましょう。

○「2年間の振り返るシート」を用いた省察

アクティビティ①②の成果物、manabaのポートフォリオ等の資料をもとに、「2年間の振り返るシート」を作成します。

(1) 2年間の経験や学びを通して得た知識と身に付けた力について、「教職基盤」に基づいて振り返ります。(2) 2年間の経験により、自らの学びの姿勢（省察的な学びのサイクル）にどのような変化が生じたのか、記録を書きます。

○「2年間の振り返るシート」を用いた履修計画の作成

2年間の自分の学びについて、「教職基盤」毎に可視化したTSSにより特徴を把握します。

「2年間の振り返るシート」をもとに話し合いを行い、自分の得意分野や課題について、考察を深めます。

上記の取り組みを通して、3年次の履修計画を立てます。3年次は実習や専門性の高い授業が増えます。自分の持ち味を生かして「理想の教師像」に向けてスタートを切りましょう。

3年次における省察的な学び

3年次における省察的な学びは、主に初等実習リフレクションの中で行います。ここでは、初等基礎実習（附属幼稚園又は附属小学校）における経験を振り返り、経験からの学び方を学び、これからの学びへの活かし方を考えます。

■ 初等実習リフレクションとは

初等実習リフレクションは、3年次の実地教育の期間中と終了後に実施される必修科目です。実地教育を「良い経験だった」という単なる感想で終わらせるのではなく、その経験を振り返り、意味付けていくことによって、CPDの基礎となる省察的な学びのあり方を習得することへとつなげていきます。この初等実習リフレクションでは、実地教育期間に作成する実習の記録や授業研究の記録を用いて振り返りを行うため、実地教育期間中に経験した出来事をしっかりと丁寧に記録していくことが大切です。

○ 附属学校園での振り返り

▶ 附属幼稚園（幼年教育系グループ）

実地教育期間中に、各歳児・学級における実習生の研究保育を大学教員が参観し、振り返りを附属幼稚園教員と共にを行います。振り返りの中で学んだことを、実習記録として書き留めることで、後に実施する（実地教育での）経験の再構成のためのエビデンス（根拠）となる資料を作成します。

▶ 附属小学校（教科教育系グループ）

実地教育期間中の毎週金曜日に、「教職基盤」を参照しながら、その週の出来事の振り返りを行います。またその振り返りの中で、実習記録として日々の出来事を書き留めていくことで、後に実施する（実地教育での）経験の再構成のためのエビデンス（根拠）となる資料を作成します。

○ 「初等実習を振り返るシート」を用いた経験の再構成

実地教育の期間に作成した実習の記録や保育研究 / 授業研究の記録を手がかりとしながら、実習での経験の「意味づけ」を再構成することを通して、「省察的な学びのサイクル」を回していきます。具体的には、実地教育中に行った学級経営や保育研究 / 授業研究について、配属学級の仲間やクラスの仲間とともに議論を行うことによって、実習中には気づかなかった幼児、児童の成長や自身の成長を新たに発見することを目指します。

4年次における省察的な学び

4年次における省察的な学びは、主に教職実践演習において取り組みます。ここでは、4年間の学び全体を振り返り、自分の得意やCPDの課題について考えます。

■ 教職実践演習とは

教職実践演習は、4年次後期に開講する必修科目です。兵庫教育大学での授業科目の履修や課外での様々な活動を通じて、皆さんが身に付けた資質能力が、教師として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終確認します。

この必修科目である教職実践演習を履修するためには、1年次から3年次までの省察の記録がmanabaに投稿されていることが必須です。

■ 教職実践演習における取り組み

▶ オリエンテーション

manabaのポートフォリオ（授業の資料、省察の記録）やTSSを根拠にして、4年間の経験とそこからの学びについて、「教職基盤」に基づき振り返ります。身に付けたと思う力、あるいは十分身に付けられなかったと思う力について考えます。

▶ 事例研究・プロジェクト基盤学修

得た知識や身に付けた力を有機的に統合して発揮したり、十分得られなかった知識や身に付けられなかった力を補ったりするため、事例研究やプロジェクト基盤学修に取り組みます。

▶ リフレクション

事例研究・プロジェクト基盤学修での学修活動とmanabaのポートフォリオ（授業の資料、省察の記録）、TSSを根拠にして、「4年間の振り返るシート」を用いて4年間の自分の成長や教師としての今後の課題を考えます。

